

支部だより

ジャカルタ支部

中嶋浩介 (In 平 3)

インドネシアの人々は老若男女もれなく子供にとっても優しい。他人の子供であっても「宝」として扱うことが遺伝子に組み込まれている。例えば、レストランで子供が騒いでも、周りの人は心の底からの笑顔であやしてくれる。子供だけでなく、人全体に優しいと言った方が良い。知らない同士でもすぐに打ち解け、和むことができる。人と人の間に垣根を作らないことが大きな魅力である。

逆に、他人に甘い分、自分にも甘いと言えるかもしれない。32年続いたスハルト政権の負の遺産であるが、ずるくても楽をして儲けようとする人がある。森林の不法伐採などが良い例だ。公務員は月100から200ドル程度の給料を受け取っていて、よく生活できるなど不思議に思われる。実際は、会議に出れば「交通費」が、上司からの頼まれごとをすれば「お疲れ様代」が、もろもろの業務に対してあちこちから「謝金」が出て、皆、暮らしている。現状を規則に合わせていくのではなく、規則の運用を適宜・適当に現状に合わせている。「合わせる」はインドネシア語で「Penyesuaian」。この国の公務員は、この便利な言葉を上手に使う。不透明な部分が多くなり、投資環境としては眉をしかめるが、仕事を離れれば日本人でもたいていは、この「インドネシア的柔軟性」を存分に楽しんでいる。

もちろん、体制整備の努力は国全体で行われている。今年の夏は、独立派と国軍が戦闘を繰り返してきたアチェ州の特別自治を規定したアチェ政府法が完成し、この12月には州知事とほとんどの県知事の直接選挙が実施される。そのアチェを中心としたスマトラ沖大地震、中部ジャワ地震、東ジャワの泥噴出など災害続きで頭の痛いユドヨノ政権の重荷が一つでも軽くなるよう、順調な選挙運営ができるよう心から願う。

独裁の時代と違い、国民は知恵を付け、政党

間の競争も厳しくなっている。地方分権も進んでいる。法律ができ、細則となる政令が完成しないうちに、法律が改正されるなど基礎が固まらない、自由を謳歌し過ぎてしまった地方の政治家と役人による汚職がやたら目に付く、など問題は多々あるが、成果を上げている地方もある。あれもこれも、中央集権だったスハルト後の明るい時代へ向かうプロセスなのであろう。

こうした中、ジャカルタ外語会は40人以上の大所帯、かつ女性の多さを特徴として、2ヶ月に一度のゴルフコンペやバーベキュー大会などで親睦を深めている。在インドネシア20年以上の諸先輩、また様々な業界の方々との肩の凝らない交流の場として、外語会の存在は会員のジャカルタライフの一部になっている。幹事としては、アチェからパプアまで、類を見ない多様性を持つインドネシアをもっと楽しむために、今後はバタック料理やマナド料理など、郷土料理の食事会を企画していきたいと思っている。

プラハ外語会

富 通夫 (R 昭 46)

枯葉が舞い落ちる去る11月10日ヴルタヴァ川中洲にある「レストラン・ジョフイーヌ」で第2回 プラハ外語会が催された。発会式を兼ねた前年の第1回プラハ外語会の参加者は5名であったが、今回は10名の同窓生が集まり盛況な会となった。



深見守 (H 昭 37)、富通夫、黒坂昭一 (R 昭 47)、澤野順一 (R 昭 60)、中川圭子 (昭 62 大阪ロシア)、大井美和 (D 平 3)、中村拓二 (Cz 平 12)、佐藤徳子 (Cz 平 16) のプラハ在住者の他にピルゼンから伊川久美子 (R 昭 51) が加わり、さらには遠くスロバキアのブラチスラバから金子由紀子 (Cz 平 16) が駆けつけてくれた。日系企業の進出が 180 社を超え、急激に高まるチェコ語需要に当日の会は求人相談会に早代わりする場面も見られるなど、今後この会の効用に益々期待が寄せられることとなろう。

宮城支部第 3 回総会

菊池哲佳 (D 平 10)

去る平成 18 年 11 月 11 日 (土)、外語会宮城支部の総会が仙台国際ホテル内のイタリア料理店「カッチーナ」で開催されました。宮城支部が大原進さん (E 昭 29) らの呼びかけにより再スタートを切ってから 3 回目、平成 16 年 3 月以来の再会となりました。



当日はあいにくの秋深まる小雨模様でしたが 18 名が集い、一つのテーブルを囲んで和やかなひとときを過ごしました。東京より新田和夫さん (M 昭 37)、根岸宏和さん (C 昭 38) がおいで下さり、東京での活動の様子をお話いただきました。また、福島県より中野衛さん (S 昭 21)、埼玉県より大原進さん、秋田県より幸野稔さん (E 昭 36)、岩手県より遠藤昌雄さん (E 昭 45) も駆けつけて下さり、東北・全国で活躍する会員の様子をうかがうことができました。当日については、佐々木幹夫支部長 (R 昭 34) を中心に、「なるべく堅苦しくない雰囲気」と幹事一

同考えておりましたが、今後もこの路線を歩みたいと考えておりますので、次回も宮城県・東北内外を問わず、より多くの方にお会いできることを願っております。

今回集いました顔ぶれは次の通りです(順不同、*は幹事) 山本栄意智 (R 昭 21) 中野衛、大原進、千田剛 (I 昭 30) *佐々木幹夫、渥美重幸 (S 昭 35) 幸野稔、富士京子 (In 昭 37) 新田和夫、根岸宏和、佐々木克夫 (D 昭 39) *山崎恭平 (IP U 昭 41) 石神均 (IP H 昭 42) 遠藤昌雄 *久保裕 (D 昭 49) *布施京子 (I 昭 59) 鈴木通江 (IC 昭 61) *菊池哲佳

ベルリンのミニ外語会

永井潤子 (D 昭 33)

統一ドイツの新首都に外語会ベルリン支部が発足したのは 2001 年夏のことだった。ベルリンの壁崩壊から 12 年、ドイツ統一から 11 年、ベルリンへの首都移転からほぼ 2 年が経っていた。発足当初のメンバーはわずか 6 人、樋川和子さん (D 平 7) や四ツ谷知昭さん (D 平 2) ら 4 人が日本大使館勤務、JETRO (日本貿易振興会) 所長の伊崎捷治さん (D 昭 41) とフリージャーナリストの私 (D 昭 33) の 6 人で、男性 2 人、女性 4 人の女性優位の会だった。商社マンが一人もいない外語会も珍しいが、これも当時のベルリンの状況を反映していた。首都移転にともなってベルリンにやって来たのはドイツの政治家、連邦各省の公務員、マスメディア関係者、それに各国の外交官やジャーナリスト、芸術家などで、企業の首都への進出はあまり多くはなかったのだ。この傾向は 5 年後の今も変わらず、この刺激的な新しいメトロポールの外語会の人数は依然として少ない。発足当時の大使館組は次々に帰国してしまい、その後坂本登三雄さん (D 昭 60) が加わったものの、すでに帰国。JETRO の伊崎さんもドレスデンに移った後昨年帰国、一時はベルリン、ドレスデン、ハンブルクの拡大外語会になったのだが、ハンブルクの笠原佳吾さん (D 昭 58) もこのほど帰国され、ふたたびベルリンのみの会となった。さらにビクターの武藤淳さん (Po 昭 61) が帰国、旅行会社勤務

の田沼＝シュトラウス久美子さん (D 平 8) もご主人の転勤でケルン・ボン地区に転居されることになり、幹事役の私はショックを受けた。読売新聞ベルリン特派員だった佐々木良寿さん (S 昭 58) は、サッカーワールドカップ騒ぎで1度も外語会を開かないうちに8月末帰国されてしまった。今年5月、外語会ツアーがドイツを訪問する際のベルリン支部のメンバーは7人、全員が女性だ。ドイツ人と結婚している人が4人、武田＝クレブス由美子さん (D 昭 47) や植原＝ツェルナー久美子さん (D 昭 61) は日本語教師や翻訳業で活躍、今掛＝シェンメル美保さん (C 平 7) や中島＝クレッチュマー愛さん (GD 平 13 ヨーロッパ第1専攻、ドイツ文学) は学業のかたわら目下子育て中、後の2人、金子沙織さん (D 平 13) や野口優子さん (D 平 14) はベルリンの大学に留学中。実際に動けるのは、若い学生2人ととびきり高齢の私の3人だけというのが実情だ。数少ない集まりのうち、印象に残っているのはやはり第1回の会合だが、自由ベルリン大学での研究のため短期滞在された早稲田大学教授 Wolfgang E. Schlecht さん (日本語学科昭 55) を囲んでの会も忘れ難い。



前列左から金子沙織、田沼久美子、永井潤子、
後列左から野口優子、武藤淳、笠原佳吾

鹿児島支部例会

上原真人 (E 昭 41)

日時：平成 18 年 11 月 11 日 (土) 参加者：有田多賀士 (E 平 9) 江尻陽一 (R 昭 46) 定美穂子 (I 平 9) 田辺厚子 Jones (D 昭 39) 上原真人。

今回は参加者 5 名、前 2 回は約 14～15 名ずつで全体で話を聞く時間はありませんでしたが、今回はお互いの学生時代や現状について存分に聞くことができました。普段、生活の場が違う



もの同士が理解しあう良い機会になりました。

最初に、今年 1 月に行われた一橋大、東京医科歯科大、東京工大、東京外大、4 大学の鹿児島支部合同懇親会のこと、9 月に福岡市で行われた学長九州講演会のこと、それに東京外大教育支援基金事業の募金支援委員長に昨年鹿児島支部会に参加してくださった上原尚剛氏が就任したことなどの報告をしました。

会が進むにつれて特に盛り上がったのは、遠藤周作氏をめぐる話題でした。A さんは大学卒業後、編集者を目指して大手出版社に就職、作家宅に原稿を受け取りに行くのも大事な仕事で遠藤周作、大江健三郎などといった作家にも親しく接する機会があったそうです。それを聞いて若い B さんは遠藤周作の名前が出たとたん、堰を切ったように思いの丈を語り始めました。B さんは学生時代、その作品をあまさず読んで大ファンになったとか。そして「ある日遠藤周作が亡くなったというニュースが流れ、いてもたってもおられず、通夜にも墓参りにも行きました。私も作家の家に原稿をもらいに行くという仕事をしたくて、というか遠藤周作の家に原稿をもらいに行くという立場になりたくて出版社をめざしたんですよ。A さんのご経験がうらやましくてたまりません」という話になりました。親子のようなお二人の話がたけなわのとき隣の C さんから「私もその出版社を受けたんですよ」というおまけまで出ました。今年は離島に転勤になった方など物理的に参加不可能な方が多く、少人数になりましたが次回には多くの方が参加して下さいますようお願いしています。

連絡先：上原真人 〒890-0013 鹿児島市竹丘

1-29-16Tel.099-282-8972

e-mail my-uehara@po.synapse.ne.jp

長野支部第六回総会・懇親会開かれる

越 茂樹(M平6)

長野支部の、第6回総会と懇親会が2006年11月18日(土)、長野市のレストラン「やま」で開かれた。2年ぶりとなった総会には、県内出身で東京在住者を含め計18人が出席し、本部からは神奈川孝子外語会副理事長(F昭37)と石原隆良同会支部委員長(D昭31)が出席した。また、総会に先立ち、塩沢鴻一支部長(D昭24・長野市在住)が会長職を務め、このほど移転建設した民放テレビ局信越放送本社の見学会が行われた。塩沢支部長は「中心市街地だがデパートが倒産して十年ほど荒地となっていた場所。放送局は人との接触が何よりも大切だから街の真中に進出した。滑り出しは上々。こうした一仕事を終えたので、これからはもっと外語会の皆さんとの接触を増やしていきたい」とあいさつした。

総会では、役員改選で西村春枝さん(C昭31・岡谷市)、元共同通信社でジャーナリストの中島宏さん(C昭33・調布市・上田出身)、信越放送報道制作局次長の中澤哲哉さん(F昭50・長野市)が新役員に選ばれた。出席者は教職員や農家、商店経営者、マスコミ関係者らさまざまな職種で、年齢も三十代半ばが最も若く、最古参は元飯田市議会議員の伊藤芳之さん(C昭18)の85歳。伊藤さんは府中の学舎へ訪れたそうで「滝野川の頃は貧乏だったのに立派になりましたね。私も元気にやっています」とのこと。

石原外語会支部委員長によると、国内15支部・海外45支部の外語会のうち、長野支部は外国人の弁論大会を開くなどユニークな存在だとか、又長野支部に外語会非会員の方々がおられれば是非入会願いたいとの要請があった。ただこのところ、活動が低下しており、岩下隆(C昭45)事務局長は「県内の外語生に通知を120部発送して50人から返答があり、本日の出席者数となった。もっと大勢の方が気軽に参加して、情報交換の場として役立ててほしい」と話す。

今回の総会では、活動方針として①次回二年後に松本市内で総会を開く②総会への参加を働き掛けること、を決めた。宴席中盤での一人ず

つのあいさつでは、坂部明信大教授(IP昭40・松本市)が「インド哲学を専攻しており、死と生に関心がある。日々が一生、この瞬間が一生。楽しく生きたい」と話した。西村さんは仕事を終え、原稿用紙を埋める毎日だとか。中島さんは日本記者クラブの企画・講演会の手伝いをしている。

初参加の人たちもリラックスした様子。胡桃沢武さん(In昭42・松本市)は「会社では総務畑で語学と縁がなかった。寮のお話が出ましたが本当に懐かしく、楽しいひとときです」と嬉しそうだった。同じく初参加の原田省子さん(D平4・長野市)はNTT東日本長野支店勤務で、「社内の技術文書は英語が多いので、もう一回勉強し直して在学中よりはできるようになりました」と報告、参加者から喝采(かっさい)を浴びた。

皆さんご活躍の様子で、紙面の都合上抜粋して一部紹介すると、NHK長野放送局副局長から今夏、信越放送に移った中澤さんは「そろそろ転勤かなと思っていた頃、『古里のために貢献したらどうだ』と塩沢さんから言葉を掛けてもらったのがきっかけ。明日は午前4時から佐久に出張してNHK時代の人脈を我が社のネタもとにするよう働き掛けるつもり」とはりきっていた。岩下さんは「中国語で書いた信州を紹介する本を出したい」、信州短大教授の草間文男さん(D昭33・小諸市)は平成20年からの四年制大創設が決まり、力を尽くしたいとの趣旨のあいさつをした。今回、「年配者の集まりだから気後れするよなあ」との内なる思いを説き伏せて出席してみると、やはり刺激を受けて帰路につけたので、県内の若い人たちも是非一度参加してみたらどうだろうか。(信濃毎日新聞社文化部勤務・千曲市)

